令和３年度二本松北小学校　学校だより　Ｎｏ．４３

輝け！北っ子！

令和３年　９月　９日
文責：校長　大内雅之

ちょっといい話　～子どもたちの優しさ～

ふと思い出し、ここのところ子どもたちの「ちょっといい話」を紹介できずにいたことに気づきました。もう少し考えてみると自分が「ちょっといい話」を見つけようとしていなかったのではと思ったのです。いい話に「気づく」ためには「気づこうとしている」ことが前提にあるように思うのです。いい話が自分の前で起きていても、そのことを「いい話」として認識できるかできないかは大きな違いになってきます。ぜひ、ご家庭でも子どもたちの良さを見つけようと思って子どもたちを見つめてあげてください。必ず子どもの良さに出会うはずです。

さて、ちょっといい話を見つけようと思って、子どもたちと接しているとすぐに出会いましたので２つ紹介したいと思います。

【感謝の行動・感謝の心】

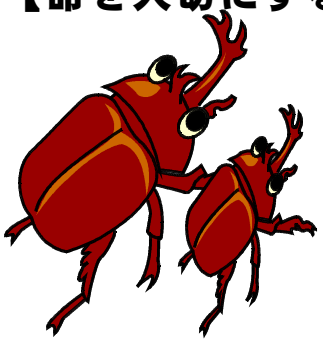
校庭に雑草が生えていることは前にお話ししましたが、私は時間を見つけて少しずつ草削りをしています。先日も草削りをしていると休み時間で校庭に出てきていたいろいろな学年の子どもたちがよってきてくれました。

「校長先生何してるんですか？」「雑草をとってるんだよ。」

たわいもな会話の後、子どもたちは必ずといっていいほど草をむしってからまた遊びに戻っていくのでした。中には、

「私もやります」といって休み時間を草むしりに当ててくれる子もいました。さらには、「校長先生ありがとうございます。」と言ってくれる子も。感謝の気持ちを言葉にしたり、行動に表したりはなかなかできないもの。北小の子たちの優しさに感激しています。こんな場面に出会うと、疲れが吹っ飛びまた草削りしている自分がいました。

【命を大切にする】



学校では学習との関連もあり、いろいろな生き物を飼っています。生き物は大切に飼っているつもりでも、途中で死んでしまうことも多々あるのが現実です。

２年生は昨年から生活科の学習の流れでカブトムシを飼っていました。１年生の時に産ませた卵を大事に孵化させ、カブトムシを２代にわたって育てていたのでした。ですが、昨日そのカブトムシが死んでしまい花壇の隅に埋めてあげていました。飼育ケースの土ごと優しく花壇にかえし、手を合わせ死を悼む子どもたち。するとそこに、アゲハチョウとモンキチョウが飛んできたのでした。それを見た子どもの一人がこんなことをつぶやいていました。

「カブトムシを迎えに来てくれたのかな？天国に連れて行ってね。」

大事に育てたからこそ出た言葉、優しさあふれる言葉。命について学んでいた瞬間に立ち会うことができました。

下水道出前授業
～身近な生活の中から「学ぶ」　実体験を通して「学ぶ」～

８日、４年生が福島県下水道公社の方を講師に迎え、下水道に関する学習を行いました。家庭から出る水の流れや家庭での水の１日の使用量（※４人家族で 1000L だそうです）の説明を受けたり、下水処理場にいる微生物の実物を顕微鏡で見せていただきながら学習しました。また、いろいろな液体（水道水、味噌汁、川の水など）を検査キットを使って汚れを調べていました。子どもたちにとって「身近な生活からの内容」や「実体験」を通した学習は、大変有意義なものです。これからも感染症対策を十分に講じながら、できる限り実施していきたいと思っています。